

Ⅱ-14

子どもの名づけの由来から 育みたい非認知能力を考えよう

対象：4～6歳児をもつ保護者
時間：30～45分程度

ねらい	○ 「子どもの名前の由来」「どんな子に育てほしいか」を振り返り、保護者が子どもに望む姿が「非認知能力」に重なることに気付くことで、非認知能力を身近に感じ、伸ばしていこうという気持ちを育む。		
実施のポイント (評価など)	○ 非認知能力を知らない保護者にとっても考えやすい「由来」(子どもに望む姿)というテーマのワークを通じて、非認知能力を身近に感じることができるようになる。 ○ 「由来」がないという保護者は、「どんな子に育てほしいと思うか」について考えることができるようになる。 ○ 非認知能力を育む方法については資料を使って説明する程度にとどめ、詳しくは研修で実施することを伝える。		
事前準備	○ あらかじめ3～4人のグループに分かれておく。 ○ 筆記用具 ○ ワークシート ○ アンケート用紙(必要に応じて) ○ 資料 ○ 名札		
時間	学習活動	学習活動のねらい(◎)とポイント(・)	準備物
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ワークの趣旨説明 3つの約束 アイスブレイク (簡単な交流・自己紹介) 	<ul style="list-style-type: none"> ねらい、流れ等について説明する。 3つの約束を守るように周知する。 参加者の緊張をほぐす。 	名札 3つの約束
展開 15分～20分	ワーク1	◎お子さんが生まれたときのことや、これまでの子どもの成長などを振り返ることで、生まれたころの子どもへの願いや思いを想起させることをねらいとする。 ・記入したことを参加者同士で共有し、話の中で視野を広げる。 ・今の子どもを振り返ることで、参加者同士の対話・共感が生まれるようにする。 ・由来がないという参加者には、「どんな子に育てほしいと思うか」を考えてもらう。	ワークシート
5分～10分	資料紹介		
まとめ 5分～10分	ふりかえり	◎話し合いの中で出た印象に残ったことや思ったことをワークシートに書き込むことで活動を振り返り、自分自身の意識の変化や新たな気づきを認識し、実践意欲を高めることができるようにすることをねらいとする。 ・さらに学びたい方のために、「非認知能力レンズ」研修のチラシを配り、情報提供する。	ワークシート 研修のチラシ